

学びの土壌(環境・関係性・風土等)の見える化・マネジメントについて

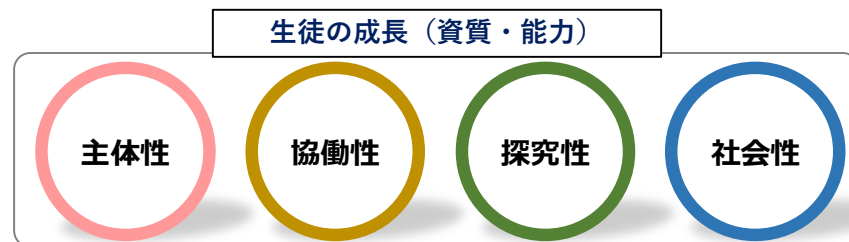
【事例】高校魅力化評価システム

「高校魅力化評価システム」は、(一財)地域・教育魅力化プラットフォームと三菱UFJリサーチ&コンサルティングで開発した、「生徒の成長」と「生徒の学習環境(学びの土壌)」を見える化し、エビデンスと対話に基づく政策マネジメント及びカリキュラム・マネジメントを推進するための評価ツールです。令和2年度には全国136校(38691名の生徒)に活用いただいています。

「高校魅力化評価システム」の特徴

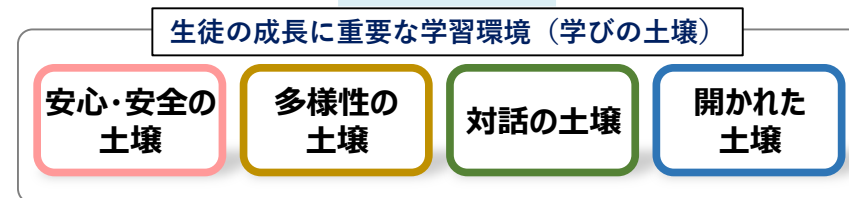
1. 「社会に開かれた教育課程」に求められる資質・能力を多面的に把握

- ✓ 生徒及び教職員等への質問紙調査を用いて、これからの社会に求められる資質・能力に関する生徒の状況を多面的に捉えることができます。
- ✓ 特に、「地域」や「社会」に対する意識を幅広く捉えているところが特徴です。



2. 生徒の学習環境 (= 「学びの土壌」) を把握

- ✓ 資質・能力の育成に重要となる、生徒を取り巻く学習環境(学校や地域での大人との関係性や機会の有無など)に着目します。
- ✓ 生徒の学習環境(=学びの土壌)の現状を、定量的に把握できる点に大きな特徴があります。
- ✓ また、生徒の学習環境に影響を与える、大人(教職員等)の在り方(姿勢・態度等)の見える化・振り返りも行えます。



子どもたちの資質・能力を育むためには
明示的な教育課程（シラバス・学習計画等）だけでなく、
ヒデューンカリキュラム（学びの土壌、教職員等大人の見方・考え方・姿勢等）も含めた
カリキュラムマネジメントが重要

生徒の資質・能力

知識・技能 等

主体性

探究性

協働性

社会性

学びの土壌・環境

挑戦の連鎖が生まれる
安心・安全の土壌

問う・問われる
対話の土壌

協働を生む
多様性の土壌

地域や社会に
開かれた土壌

大人のあり方

自ら課題発見・解決に挑む

主体性

問い・学び続ける

探究性

多様な他者とチームで動く

協働性

越境できる開かれた

社会性

【参考】高校魅力化評価システムの活用場面

- PDCAサイクルの構築を評価から構築
- 地域や社会に開かれた主体的な対話や協働を推進
- 予算獲得も含め、持続進化可能な取り組みへ昇華

学年会議で

【学校目標、学年目標、クラス目標などの検討のために】

- ・ 学年ごとの生徒の特性を踏まえた教育実践や、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善（PDCA）のサポートに。

職員会議で

【高校魅力化に関する現状・目標・ビジョンの共有のために】

「チーム学校」が一丸となれる目標の共有、成果や状態の評価に。

- ・ 特に伸ばしたい生徒の力の目標共有（魅力化の狙いの共有）
- ・ 経年での成果の把握（目指す姿に近づいているかの確認）
- ・ 高校、地域の学習環境の現状把握 など

地域との協働の場で

【魅力化に関わる自らのあり方を振り返るきっかけに】

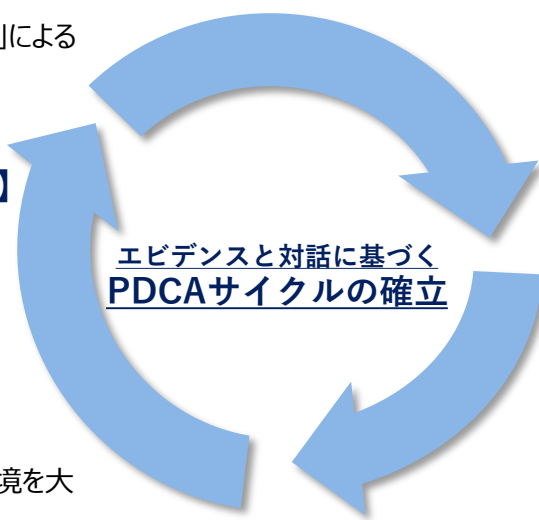
生徒の学習環境はどのような状況にあるのか定量的に把握し、どのような学習環境を大人たちが変えていけば良いか、地域と協働した建設的な議論のサポートに。

- ・ この高校、地域の学習環境の強み、弱みは？他地域と比べてどうか？ など

事業評価で

【事業のPDCAサイクルの推進や成果の見える化、現場支援のために】

- ・ 魅力化などの事業によって、生徒の成長や地域、社会への意識の変化に対し、どのような成果が見られるか？進捗確認のサポートに。
- ・ 今後も事業を継続し、予算獲得、有効な支出に繋げていくために、地域で取得すべき成果指標は何か？今後の方針策定に。



エビデンスと対話に基づく
PDCAサイクルの確立

【参考】その他：活用例等

スクール・ポリシーやビジョン策定

データをもとに教職員がそれぞれの意見を出すことで、対話的にスクール・ポリシーを策定

- 育てたい生徒像として掲げている力の視点で、アンケート結果から生徒の「できていること」「できていないこと」の現状分析を行う。
- 出てきた内容をもとに「身につけさせたい資質・能力」をあらためて具体化し、グレンジーション・ポリシーとして整理。
- それぞれの資質・能力を身につけさせるためにはどういった手段や機会を設けると良いかを分掌・学年会に分かれて協議し、カリキュラム・ポリシーにまとめる。
- これらを踏まえて、アドミッション・ポリシーを策定。
- 教職員等で対話的に進めたことで、実際の教育活動でも教職員が意識しやすい形で、スクール・ポリシーを策定。

育てたい生徒像にもとづく改善実施

評価項目を育てたい生徒像と紐づけて整理し、学年ごとに次の一手を検討、実施

- 自校の育てたい生徒像をルーブリックとして、整理し、関連する評価項目を一覧化。
- 教職員研修で学年ごとに結果を分析し、改善に向けた施策を検討。
- 重点的に数値を向上させる項目を検討し、現在の教育活動をどのように変えるかと合わせて、職員会議で共有。
- 実際の教育活動についても、お互いに授業見学等を行う。
- 重点項目に関するアンケートを独自で作成（具体例等も記入）し、変化を分析。

詳しくは以下のページや資料をご覧ください

◆高校魅力化評価システムについて <https://cn-miryokuka.jp/project/project04/>

◆政策レポート：魅力ある高校づくりをいかに評価するか
https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/politics/seiken_191122_3/